

高齢女性の衣服と体形に関する意識

渡邊敬子* ○高部啓子** 大村知子***

(*大妻女大大学院, **大妻女大短大, ***静岡大教育)

目的 わが国では、2020年には超高齢社会に達すると言われ、他に例をみない急速な高齢化への対応が必要とされている。衣服に関しても高年齢者のニーズに合ったものを供給するため、まず、彼らの衣服に関する意識や抱える問題を明らかにする必要がある。本報では、特に衣服の身体適合の問題に着目して中年女性との比較を交え、それらの問題について検討した。

方法 調査は、1994年6月から9月上旬にかけて、関東地区から中部地区の高齢女性（65歳～91歳、平均年齢73.2歳）273名と、比較集団としての中年女性（38歳～64歳、平均年齢49.6歳）

266名を対象に質問紙調査を実施した。質問内容は、衣生活と衣服の身体適合及び、自己の身体の形態的特徴に関する意識などである。これらの回答結果に、クロス集計、 χ^2 検定、因子分析を用いて検討した。

結果 既製衣料に対する不満の原因は、中・高年とも”体に合わない”が第1位で、特に高齢女性ではその半数が不満としていた。そこで、衣服の着脱、形態適合、寸法の不都合について尋ねたところ、高齢女性は着脱と形態適合に関するほとんどの項目において不都合と答える割合が高く、特に上肢の動きに関わる項目や姿勢と関連が深い項目において中年女性との間に有意な差が認められた。次に衣服の身体への形態適合と身体特性との関連をみるために因子分析を行った結果、因子として高齢女性では①周径に関して適当なサイズがないという不満、②部分的な適合に関する感度、③丈に関する不満、④下衣の周径に関する不満、⑤姿勢とそれによって生じる不適合感などが得られた。しかし、衣服の形態適合の問題と身体特性との関連は中年女性の結果に比べて明確でなかった。